

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千五百五十七號

昭和十七年八月一日(土)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第三〇五二號ノ二  
 雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

昭和十七年八月一日

海軍大臣

第九六八號	内 火艇 (十二米)	横須賀海軍航空隊	同	第四三〇號	同 (同)		隊 紀伊防備	同
第九六九號	飛行機運搬船 (百噸)		同	第四三九號	同 (同)			
第九七〇號	内 火艇 (十二米)	需部	同	第四四六號	同 (同)	備隊		
第九七一號	同 (二十噸)	吳海軍軍需部	同	第四五三號	同 (同)	佐世保防備隊		
第九七二號	交通船兼曳船 (六十噸)		同	第四五七號	同 (同)			
第九七三號	曳船兼交通船 (百噸)		同	第四五八號	同 (同)		隊 佐伯防備	定數
第九七四號	曳船 (百五十噸)	軍佐世保海務部	同	第四五九號	同 (同)			
第九七五號	同		同	第四六〇號	特型運貨船 (十四卷)			
第九七六號	同		同	第四六一號	同 (同)		隊 航空廠	同
第九七七號	同		同	第四六二號	同 (同)			
第九七八號	同		同	第四六三號	同 (同)			
第九七九號	同		同	第四六四號	同 (同)			
第九八〇號	同		同	第四六五號	同 (同)			
第九八一號	同		同	第四六六號	同 (同)			
第九八二號	同		同	第四六七號	同 (同)			
第九八三號	同		同	第四七八號	同 (同)			
第九八四號	同		同	第四七九號	同 (同)			
第九八五號	同		同	第四八〇號	同 (同)			
第九八六號	同		同	第四八一號	同 (同)			
第九八七號	同		同	第四八二號	同 (同)			
第九八八號	同		同	第四八三號	同 (同)			
第九八九號	同		同	第四八四號	同 (同)			
第九九〇號	同		同	第四八五號	同 (同)			
第九九一號	同		同	第四八六號	同 (同)			
第九九二號	同		同	第四八七號	同 (同)			
第九九三號	同		同	第四八八號	同 (同)			
第九九四號	同		同	第四八九號	同 (同)			
第九九五號	同		同	第四九〇號	同 (同)			
第九九六號	同		同	第四九一號	同 (同)			
第九九七號	同		同	第四九二號	同 (同)			
第九九八號	同		同	第四九三號	同 (同)			
第九九九號	同		同	第四九四號	同 (同)			
第千號	同		同	第四九五號	同 (同)			

海軍公報 (部内限) 第四千五百五十七號 昭和十七年八月一日

第四三號	同	(同)	横須賀防備隊 海軍機雷學校 館山海軍砲術學校 同
第四二號	同	(同)	
第四一號	同	(同)	
第四〇號	同	(同)	
第三九號	同	(同)	
官房第四六八六號 當分ノ間書伊號第五百五十二潜水艦ヲ左ノ通假稱シ部内限之ヲ使用ス 昭和十七年八月一日 海軍大臣			
廢潜第十四號 官房第四六八七號 昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依ル海軍監獄ノ所屬、名稱及位置ヲ左ノ通定ム 昭和十七年八月一日 海軍大臣			
所屬	名稱	位置	
支那方面艦隊	第一海軍刑務所	上海	
第二遣支艦隊	第二海軍刑務所	香港	
第一遣支艦隊	第三海軍刑務所	漢口	
第一南遣艦隊	第一百一海軍刑務所	昭南	
第二南遣艦隊	第一百二海軍刑務所	マカツサル	
第三南遣艦隊	第一百三海軍刑務所	マニラ	
海南警備府	海南海軍刑務所	三亞	
官房第四六八八號 昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依リ設置セラレタル海軍監獄ノ職員配置ヲ左表ノ通定ム 昭和十七年八月一日 海軍大臣			
第一海軍刑務所	臨時海軍監獄長 一人	臨時海軍監獄看守長 四人	臨時海軍監獄看守 十八人

第二海軍刑務所	二人	十人
第三海軍刑務所	一人	五人
第一百海軍刑務所	一人	五人
第一百二海軍刑務所	一人	十五人
第一百三海軍刑務所	一人	五人
海南海軍刑務所	一人	五人

○ 通 牒

官房機密第九三〇一號

昭和十七年七月二十二日

海 軍 次 官

關係廳長殿

昭和十八年度陸軍戰時召集延期者ニ關スル件申進ノ件申進

本年官房機密第六九四六號申進首題ノ件中別表第一ニ左記ヲ追加セラレ候

記

應 名	申請標準員數		國民兵役	
	甲種	乙種	甲種	乙種
舞鶴海軍刑務所	三	一	三	一
橫須賀第二海兵團	一	一	一	一
舞鶴海兵團	一	一	一	一
海軍經理學校	一	一	一	一
海軍航海學校	一	一	一	一
第十聯合航空隊	一	一	一	一
橫須賀病院	一	一	一	一
吳海軍經理部	六	三	八	四

官房第四六八九號

昭和十七年八月一日

海 軍 省 副 官

橫須賀、吳、佐世保、舞鶴 鎮守府副官殿

特設艦船及商船砲熳兵裝試驗成績報告ニ

海軍公報(部内限) 第四千五百五十七號

昭和十七年八月一日

八二一

1734

關スル件通知

兵器造修規則第二百二十六條ニ依リ提出ノ首題報告ハ當分ノ間相當隻數(一月分以内)ヲ取纏メ一冊トシテ報告セラレ差支ナキ内意ニ付了知相成度但シ特ニ故障等ヲ生起セル艦船、特設航空母艦、特設巡洋艦ニ關シテハ從來通共ノ都度報告ノコトニ取計相成度

軍需衣第一〇二號ノ二

昭和十七年八月一日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長殿

修補用古品被服供給標準改正ノ件通牒

昭和十六年十月九日軍需衣第二七八號通牒首題ノ件別紙中左ノ通追加致候

記

第一號中靴下ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

小巾白木綿縁 一・一五米

同號備考ニ左ノ如ク加フ

二、小巾白木綿縁ハ中著襟修補用トシテ材料品タル

新品ヲ供給スルモノトス

参照(昭和十六年十一月八日海軍公報(部内限) 同 十七年五月十五日同)

軍需機密燃第三四三號

昭和十七年四月一日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

燃料練替供給單價ノ件通牒

昭和六年官房第三三五六號ニ依ル本年度燃料練替供給單價左記ノ通定メ候

記

品	種	數稱	單	價
海軍	煉炭	匳	四五	〇〇〇
一號	煉炭	同	四五	〇〇〇
一號	塊炭	同	四〇	〇〇〇
二號	塊炭	同	三二	〇〇〇
三號	塊炭	同	三〇	〇〇〇
粉	炭	同	二八	〇〇〇

二號	石油	同		二二〇	輕油	同	二二〇
一號	石油	同		二六〇	アルコレル	同	三三〇
三號	普通揮發油	同		三三〇	一號ベンゾール	同	二二〇
二號	普通揮發油	同		三三〇	二號ベンゾール	同	二二〇
一號	普通揮發油	同		三三〇	備考 其他ノ品種ニ關シテハ必要ノ都度通牒ス		
航空八七原料揮發油	同			四〇〇	艦本機密第一號ノ八二三八		
航空七〇分解揮發油	同			三六〇	昭和十七年七月三十一日		
航空八〇分解揮發油	同			三九〇	關係廳長殿		
航空八五揮發油	同			四三〇	兵器名稱改正ノ件通牒(砲術長主官)		
航空八七揮發油	同			四四〇	首題ノ件左記ノ通改正ス		
航空九一揮發油	同			五三〇	記		
航空二號揮發油	立			一二〇〇			
罐用重油	同			八〇〇〇			
一號重油	同			八五〇〇			
二號重油	同			一五〇〇〇			

海軍公報(部内限) 第四千百五十七號

昭和十七年八月一日

八二三

1736

小銃發射彈携帶囊 小銃用煙彈携帶囊

○ 辭 令

斯波孝四郎

海軍ニ於ケル造船造兵業務囑託ヲ解ク(註明海軍省)

(各通)

海軍豫備兵曹長 川村 佐吉  
米永 貞志

第一航空艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(註明同)

森 芳 規

舞鶴鎮守府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ舞鶴地方海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千六百圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス(註明同)

柳田 米次郎

浮島丸ニ於ケル通信事務囑託ヲ解ク(註明同)

從七位 日高 善一

海南警備府ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳百圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス(註明同)

海軍軍醫大佐 柴田 龍三  
吳海軍工廠ニ於ケル海軍共濟組合事務囑託ヲ解ク(註明同)

(各通)

千八百圓 海軍豫備大尉 服部 秀雄

千八百圓 海軍豫備機關大尉 板倉 泰

貳千四百貳拾圓 陸軍少尉 郡 信二  
海軍省事務囑託ヲ解キ第十一特別工作部ニ於ケル業務ヲ囑託シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス

(各通)

土谷 武夫

海軍省事務囑託ヲ解キ第十一特別工作部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

岡本 貞雄

但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス(以上註明同)

北村 宗之助

海軍省事務囑託ヲ解ク(註明同)

西牧 貢

第一遣支艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク

村手 源一郎  
永井 安

(各通)

第三南遣艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上註明同)

海軍省南方政務部事務囑託

自今報酬ヲ給セス(七四同)

久保 辰二

(各通)

三宅 傳七

馬場 義男

春田 信一

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

陸軍少尉 南家 碩次

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス(以上七四同)

勳六等 武内 文彬

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

從四位勳四等 永田 安吉

軍令部ニ於ケル調査事務囑託ヲ解ク(以上七四同)

千葉 司一郎

岡田 銀

温品 麟二

工藤 彦祐

浅野 清

大西 頼太郎

(各通)

安甘 平藏

小岩井 宗義

武部 三郎

北村 邦介

東郷 清之進

庄司 政藏

城島 重雄

「ニッブリラン」民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

貳千拾圓

貳千拾圓

(各通) 貳千拾圓

千八百圓

千八百圓

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額參千圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(以上七四同)

松野 木文雄

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

横溝 末吉

海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

氏家 竹次郎

海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

第一艦隊齒科治療業務囑託

佐藤 李榮

第三艦隊齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

同

橋元 伊八郎

第三艦隊齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額四千圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

(各通) 貳千參百圓

(各通) 貳千百五拾圓

南西方面艦隊民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

森 眞一  
長澤 親一

(各通)

第三南遣艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク

塚本 梅雄  
深田 毅

第三百三海軍軍需部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上同)

(各通)

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

白井 俊一  
山本 勇

(各通)

海軍省兵備局ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス

(各通)

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

片山 廉一  
栗山 喜知郎

海軍省事務ヲ囑託ス

地質調査所技師 平塚 隆治

海軍技術研究所研究業務囑託

中山 若枝

自今報酬年額七百五拾圓ヲ贈與ス

1739



海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	勳五等 永田 稠	内務技師 松尼 守治 同 大島 太郎
海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス	小野木長次郎	内務技師 富永 正義 同 諸井 英一
海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金六拾圓ヲ贈與ス	海軍豫備機關中尉 今野 六雄	(各通)
海軍省事務囑託ヲ解ク	海軍豫備少尉 中野 秀雄	第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス	矢野 正雄	第一海軍燃料廠ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス 但シ報酬年額貳百圓ヲ給シ部内限勅任官待遇トス
海軍技術研究所ニ於ケル研究業務ヲ囑託シ報酬年額七百五拾圓ヲ給ス	東北帝國大學教授 山田 光雄	南西方面艦隊セレベス民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上ハ同)
海軍省事務囑託ヲ解ク	海軍中將 今田 進	海軍中將 高須 三三郎(艦 本)
海軍省事務囑託ヲ解ク	海軍中將 杉坂 悌二郎	海軍中佐 藤 本 傳(同)
		同 稻田 良人(同)
		同 平田 勉(同)
		同 瀬戸 喜久太(軍 令)

海軍公報(部内限) 第四千五百五十七號 昭和十七年八月一日

八二七

1740

海軍中佐 堀之内美義(軍務)

同 岡三知夫(艦本)

同 堀武雄(吳廠)

海軍大尉 坂本金義(呂〇〇)

海軍中尉 繁田鏡治(同)

海軍機關中佐 熱田佐太郎(艦本)

同 濱野軍一(吳艦)

同 石田磯治(吳鎮)

同 竹谷慶次郎(吳廠)

海軍機關少佐 中村威(軍務)

海軍造船少佐 富田範郎(艦本)

海軍造船中佐 廣澤真吾(同)

海軍機關特務中尉 千田然(呂〇〇)

海軍技師 岩田信太郎(艦本)

呂號第百潜水艦審議委員ヲ命ス

海軍中佐 渡邊薰雄(航本)

同 殿塚謹三(伊三四)

海軍少佐 吉留善之助(吳廠)

海軍大尉 河島守(伊三四)

海軍機關大佐 郡嶋定雄(佐廠)

海軍機關中佐 岡寅雄(艦本)

(各通)

海軍機關少佐 徳永巳法(佐廠)

海軍機關大尉 楠本正喜(伊三四)

伊號第三十四潜水艦審議委員ヲ命ス

海軍中佐 大山豊次郎(神戸監)

海軍少佐 山本秀男(伊三五)

海軍大尉 榎本泰夫(同)

海軍機關大尉 桑原昌夫(同)

伊號第三十五潜水艦審議委員ヲ命ス(以上ハ同海軍艦政本部)

(各通)

1741

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千五百五十八號

海軍大臣官房

昭和十七年八月三日(月)

## ○令 達

官房第四六三三號

海軍艦政本部總務部ニ於ケル船舶ノ造修事務ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年七月二十九日

海 軍 大 臣

第一條 海軍艦政本部總務部長ノ所掌事務中船舶ノ造修ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲海軍艦政本部ニ商船部長ヲ置ク海軍艦政本部出仕ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 海軍艦政本部總務部ニ商船班ヲ置ク商船班ハ海軍艦政本部總務部ニ於ケル所掌事務中船舶ノ造修ニ關スル事務ヲ分掌ス

第三條 商船班ニ班長、班員及附ヲ置ク班長及班員ハ海軍艦政本部出仕又ハ部員ヲ以テ、附ハ海軍艦政本部附ヲ以テ之ニ充ツ其ノ命課ハ海軍艦政本部長之ヲ行フ

## ○辭 令

第四條 班長ハ商船部長ノ命ヲ承ケ班ノ事務ヲ掌ル

第五條 班員ハ班長ノ命ヲ承ケ服務ス

第六條 附ハ班長又ハ班員ノ命ヲ承ケ服務ス

(各通)

海軍機關少佐 前 川 馨

海軍軍醫中佐 向 後 正 雄

海軍軍醫少佐 佐 藤 重 人

海軍軍醫大尉 岡 宣 三

同 中 村 成 美

昭和十七年七月及八月施行ノ海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試験臨時委員ヲ命ス

海軍機關大尉 横 山 博

昭和十七年七月及八月施行ノ海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試験臨時委員ヲ免ス

(以上<sup>三</sup>海軍省)

海軍中佐 岡 村 於 菟 彦

靖國神社祭典掛ヲ命ス

海軍公報(部内限) 第四千五百五十八號

昭和十七年八月三日

八二九

1742

海軍武功調査委員ヲ命ス

支那事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス

表彰審査委員會委員ヲ命ス

御府獻納品銓衡委員會委員ヲ命ス(三〇〇同)

○雜款

○試驗問題發送

第五十二期高等科整備術練習生採用試驗問題

(採用試驗施行期日 八月二十七日)

右七月二十七日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部警備府又ハ當隊ニ至急通知相成度

記

一 單獨試驗施行豫定ノ所轄へハ直送

二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部、警備府宛送付

(聯合試驗參加豫定ノ所轄ニシテ豫定變更ノ爲聯合施行不參加ノ向ニ對スル分トシテ若干ノ餘裕ヲ含ム)

(横須賀海軍航空隊)

第五回普通科看護術特技章付與銓衡試驗問題

右七月二十八日左記ノ通發送濟、未着又ハ必要ノ向ハ至急通知相成度

記

一 聯合試驗參加各部ノ分ハ横須賀海軍人事部長ニ送

付

二 單獨試驗施行ノ各部ニハ直送セリ

三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニテ行動豫定變更其ノ他ノ都合ニ依リ聯合試驗不能ノ向ニ對スル分トシテ横須賀海軍人事部長宛若干部送付シ置ケリ

(横須賀海軍病院)

○集會所設立

七月十日第一航空基地隊内ニ佐世保水交社富高集會所ヲ設立ス

○第一南遣艦隊軍法會議留置場及第一南遣艦隊囚禁場ニ於ケル被拘禁者ニ要スル被服及糧食ノ給與ハ第十特別根據地隊主計長ヲシテ之ヲ掌理セシム

○第四十一海軍軍用郵便所第一派出所(西貢)及第二派出所(彼南)員ニ對スル給與ハ夫々三月三日及七月一日附第十一及第九特別根據地隊主計長ヲシテ之ヲ掌理セシム

(以上第一南遣艦隊司令長官)

○開隊

當隊八月一日三重縣一志郡香良洲町ニ開隊セリ

追テ旅行順路左ノ通

東海道線名古屋驛乘換一關西急行線香良洲驛下車

又ハ參宮線(省線)高茶屋驛下車

(三重海軍航空隊)

○残務整理  
第十三掃海隊残務整理ハ第四經理部バラオ支部内ニ於  
テ之ヲ行フ

海軍公報（部内限）第四千百五十八號 昭和十七年八月三日

八三一

1744

(部 内 限)

# 海軍公報 (部内限) 第四千五百五十九號

昭和十七年八月四日 (火)  
海軍大臣官房

## ○ 令 達

官房第四七〇四號  
軍港都市調査委員會規約中左ノ通改正ス

昭和十七年八月三日

海軍大臣

委員ノ部中「經理局長」ノ次ニ「施設本部總務部長」  
ヲ、副委員ノ部中「兵備局第一課長」ノ次ニ「兵備局  
第二課長」ヲ、「經理局第一課長」ノ次ニ「施設本部  
總務部第一課長」ヲ加フ  
總務部第二課長

(昭和十七年六月十一日海軍公報(部内限)本欄参照)

官房第四七二四號

横須賀海軍建築部ニ於テ使用中ノ浮函ヲ雜役船ニ編入  
シ其ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十七年八月四日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數別	記事
第〇九六號	橋船 (長十米三 申三米二)	横須賀海軍 建築部	臨時附屬	

## ○ 通 牒

兵備一機密第九四二號

昭和十七年八月三日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

特設艦船裝規程改正資料ノ件照會

現行特設艦船裝規程ニ關シ今次特設艦船裝ノ經驗  
又ハ使用実績、戰訓等ニ鑑ミ改正ヲ要スベキ事項ニ就  
キ細大トナク左記様式ニ依リ改正資料二通ヲ調製シ九  
月末日迄ニ送付ノコトニ取計相成度

(様式)

記

海軍公報 (部内限) 第四千五百五十九號 昭和十七年八月四日

八三三

1745

特設艦船機裝規程改正資料

(附表)	章	改正案（若ハ意見）	理	由
	(行條)			

記註上ノ注意

- 一 各章毎ニ別紙トス
- 二 意見ハ細大トナク記入スルコト
- 三 章、條不明ノ場合ハ一般（一般機裝）、兵裝、補給（補給關係設備）等概略區分ヲ記入ノコト
- 四 各意見毎ニ末尾ニ所轄、應名等略記ノコト
- 五 理由ハ出來得ル限リ具體的ニ記註ノコト
- 六 戰訓トシテ既提出ノモノハ末尾ニ年月日件名記入ノコト

1746

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年八月四日 (火)  
海軍大臣官房



○ 懲罰



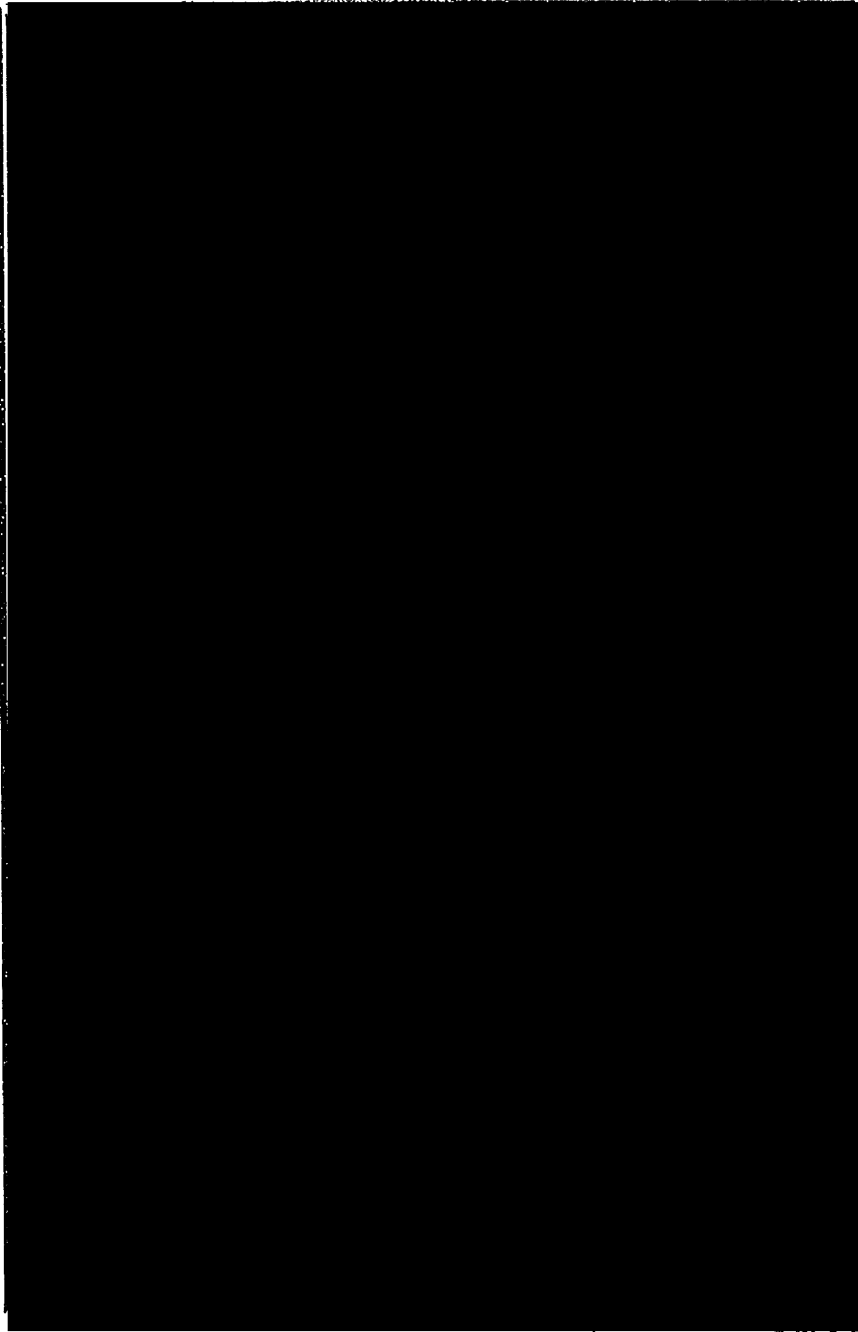
懲罰言渡書

海軍公報 (部内限) 號外

1747

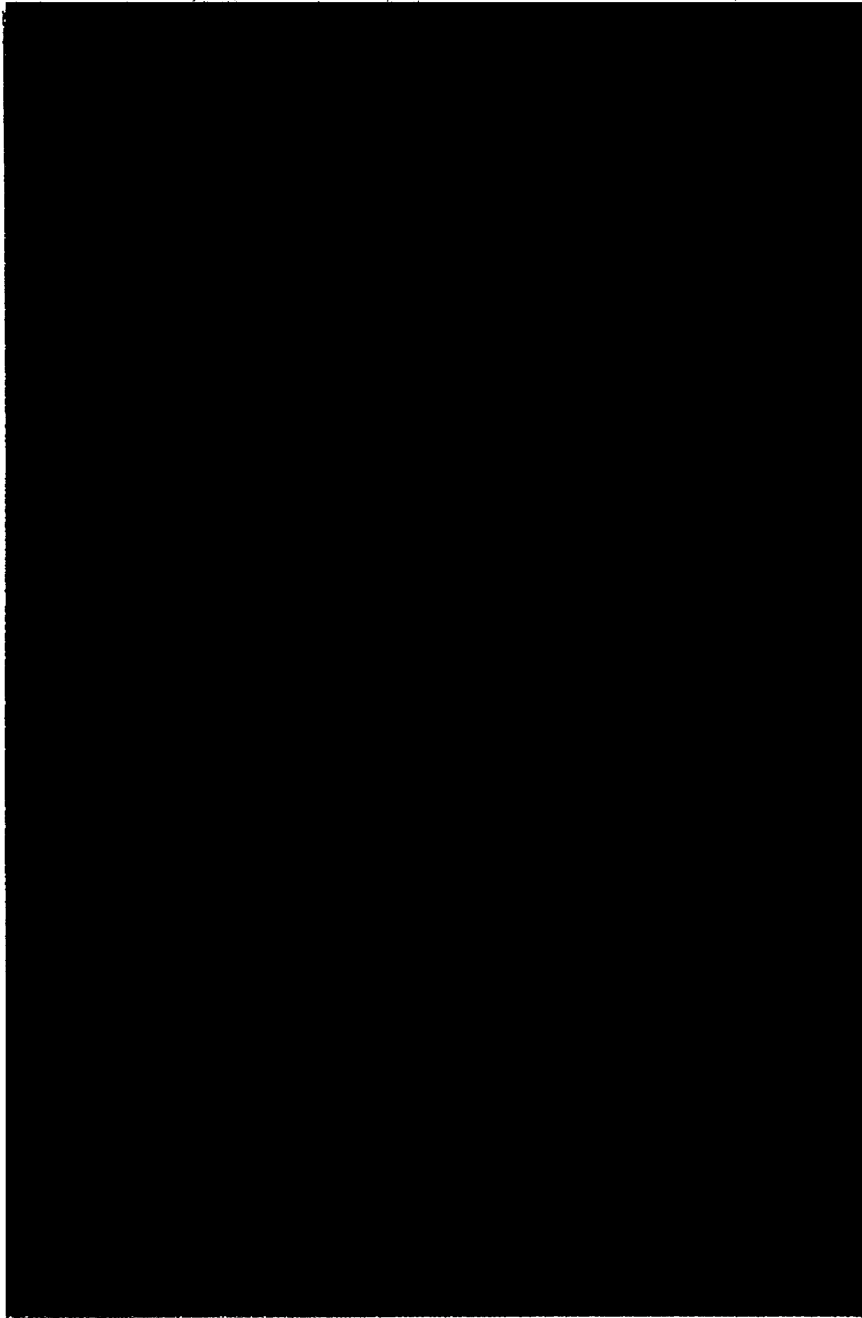


海軍公報 (部内限) 號外



1748

海軍公報 (部内限) 號外



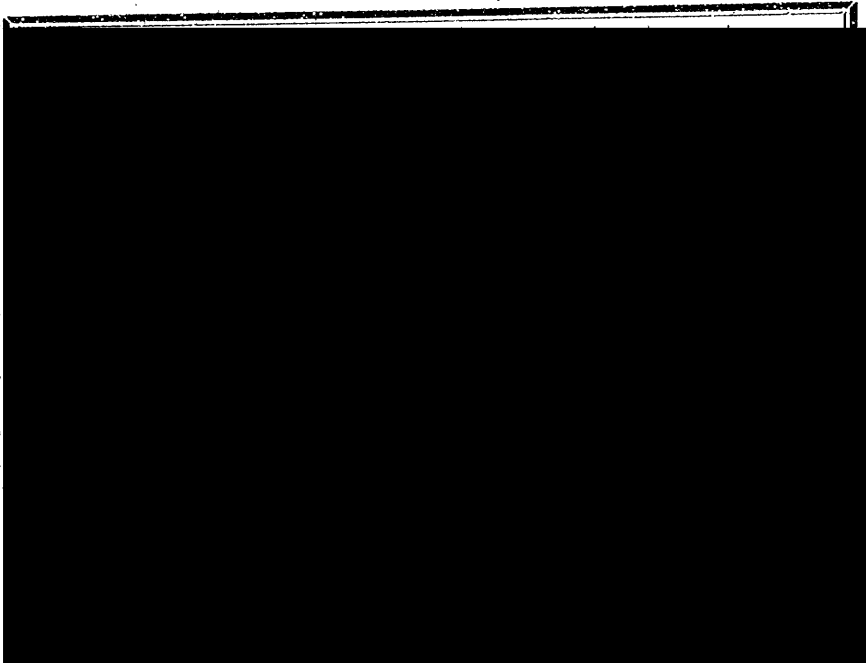
1749

海軍公報 (部内限) 號外

四

1750

海軍公報 (部内限) 號外



五

1751

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千六百六十號

昭和十七年八月五日(水)

海軍大臣官房

1752

## ○令 達

官房第一六二三號ノ二  
昭和十七年官房第一六二三號ニ依ル第四十二海軍軍用  
郵便所ハ七月二十五日ヨリ事務ヲ開始ス

昭和十七年七月二十五日

海 軍 大 臣

(三月二十四日本欄参照)

## ○通 牒

兵備三機密第一七號ノ八ノ三

昭和十七年七月二十九日

海軍省兵備局長  
海軍艦政本部長  
各鎮守府、各警備府參謀長  
支那、南西方面艦隊各參謀長  
各地監督長、首席監督官、在勤武官 殿

### 戰時下計畫造船ニ關スル件申進

戰時下商船建造ノ重要性ニ鑑ミ、茲ニ勅令第六十八號ヲ以テ海務院ノ掌管スル造船ニ關スル事務中一部ヲ海軍大臣ニ移管セラレ更ニ今般勅令第六百十九號ヲ以テ海軍大臣ノ管理スル事務ノ範圍ヲ擴大セラレテ一層積極的ナル計畫造船ニ邁進スルコトト相成タル處右ニ伴ヒ陸軍ノ造船工事ヘノ影響ヲモ豫想セララルニ至リタルニ依リ之ニ關シ陸海軍大臣間ニ別紙第一諒解事項ノ取交主務局長間ニ別紙第二覺書ノ取交有之タルニ付右了承ノ上計畫造船遂行ニ關シ然ルベク配慮相成度

### 別紙第一

造船事務ニ關スル所管等ノ戰時特例ノ改

正勅令ニ關スル陸海軍大臣諒解事項

海軍大臣ハ計畫造船實施上陸軍ノ造船工事ニ影響アリト認ムル事項ニ關シテハ豫メ陸軍大臣ニ協議スルコト但シ計畫造船ノ實施ニ就テハ陸軍ハ極力之ニ協力スルモノトス

海軍公報(部内限) 第四千六百六十號 昭和十七年八月五日

八三五

右以外ニ關シテハ陸海軍兩省主務局長ヲシテ協議セシム

昭和十七年七月二日

陸軍大臣  
海軍大臣

別紙第二

造船事務ニ關スル所管等ノ戰時特例ノ改正勅令ニ關スル陸海軍主務局長間覺書

- 一 海軍大臣ハ計畫造船ノ實施ニ關シ陸軍官船艇(陸軍軍費ヲ以テ整備及維持スル特殊舟艇及船舶ヲ謂フ以下同シ)及之ニ準スルモノノ造船、修理ニ影響アル事項ニ關シテハ豫メ陸軍大臣ニ協議スルコト之カ爲必要ナル事項ハ豫メ陸軍大臣ヨリ海軍大臣ニ通知スルモノトス
- 二 陸軍ノ官船艇ノ造船修理及陸軍徵備船ノ修理ハ陸軍之ヲ處理ス但シ長サ五十米以上ノ鋼船ノ造船修理工事ノ實施ハ海軍ニ委託スルコトアリ
- 又陸軍官船艇ニ準スヘキ特殊船等ノ設計、助成及工事ノ監督ハ從來ノ通り陸軍之ヲ實施ス
- 三 陸軍官船艇及徵備船ノ造船及修理ノ實施計畫(使用造船所及工事ノ時期等)ハ陸海軍協議スルモノト

- シ其ノ實施ハ優先的ニ考慮スルコト
  - 陸軍徵備船ノ修理用資材ハ一般修理用及戰傷修理用資材ヲ以テスルコト
  - 四 一般船舶、陸軍官船艇及之ニ準スルモノ並陸海軍徵備船ノ造船修理ニ必要ナル資材ノ需給ニ關シテハ陸海軍協議ノ上之カ調整ヲ計ルコト
  - 五 陸軍ノ管理、監督、利用工場ニ關スル事項ハ從來ト變化ナキコト但シ計畫造船ノ實施ニ就テハ陸軍ハ極力之ニ協力スルモノトス
  - 六 外地(朝鮮、臺灣、關東州)及支那並南方占領地ノ陸軍管理工場ニ於ケル船舶ノ造船及修理ニ必要ナル船舶用資材、機關、艙裝品其ノ他必要ナルモノハ陸海軍協議ノ上一般及戰傷修理用並ニ一般計畫造船用資材ヨリ陸軍ニ配當スルコト
  - 七 拿捕押收船ノ修理用資材ハ前號ニ準シ陸軍ニ配當シ得ル如ク考慮スルコト
- 備考
- 一 本勅令ニハ直接關係ナキモ陸軍官船艇及之ニ準スルモノハ陸軍軍備上極メテ重要ナルモノナルコトヲ諒解ス
  - 二 本諒解事項ハ陸海軍現地機關ニ公文ヲ以テ徹底

1753

セシムルコト

昭和十七年七月二日

陸軍省整備局長  
海軍省兵備局長

勅令第六百十九號

第一條 海務院及海務局ノ管掌スル船舶及造船ニ關スル事務中左ニ掲クル事項ハ戰時中海軍大臣之ヲ管理ス

一 長サ五十メートル以上ノ鋼船ノ製造及修繕ニ關スル事項

二 長サ五十メートル以上ノ鋼船ノ検査ニ關スル事項

三 長サ五十メートル以上ノ鋼船ノ製造及修繕ニ必要ナル船舶用機關、船舶用資材、艦裝品其ノ他船舶用品ニ關スル事項

四 長サ五十メートル未滿ノ船舶ノ製造及修繕ニ必要ナル船舶用資材、艦裝品其ノ他船舶用品ニシテ主要ナルモノノ需給ニ關スル事項但シ配給ニ關スル事項ヲ除ク

五 長サ五十メートル以上ノ鋼船ノ製造及修繕ニ關スル事業ノ監督及助成ニ關スル事項

第二條 海軍大臣ハ前條ノ規定ニ依リ管理スル事務ヲ海軍艦政本部、海務院又ハ海務局ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依リ海務院又ハ海務局ノ分掌スル事務ニ關シテハ海務院長官又ハ海務局長ハ海軍大臣ノ指揮監督ヲ承ク

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

艦本機密第三號ノ八三八四

昭和十七年八月四日

海軍艦政本部總務部長  
海軍省兵備局長

横須賀、吳、  
佐世保、舞鶴、  
大湊、鎮海、  
馬公、海軍  
第一南遣、第二  
南遣、第三南遣、  
第四、支那方面、  
第二遣支  
艦隊參謀長  
警備府參謀長  
殿

工作物タル有線通信裝置造修ニ關スル件  
照會

首題ノ件昭和十六年二月七日艦本機密第三號ノ一一四

海軍公報(部内限) 第四百六十號

昭和十七年八月五日

八三七

1754

三三依リ照會ノ次第モ有之候處四月二十一日官房機密  
第四八三大號決裁ニ依リ工作廳共ノ他ノ有線通信施設  
ニシテ從來器具タルモノモ之ガ交換機竝ニ構外線路ハ  
總テ工作物トシテ施設スルコトト相成候ニ付自今建築  
物ニ關スル上申中ニハ總テ有線通信裝置ヲモ含メ上申  
進達セラルル様取計ヲ得度

○辭令

(各通) 海軍軍醫少佐 角田 秀夫  
同 井口 哲

海軍法務學生志願者身體檢査委員ヲ命ス(海軍省)  
主木事務官 中本 静夫

海南警備府附ヲ命ス(海軍省)

○雜款

○司令驅逐艦變更  
第八驅逐隊司令ハ八月一日司令驅逐艦ヲ朝潮ニ變更セ  
リ  
○司令砲艦變更

第一監視艇隊司令ハ八月三日司令砲艦ヲ昭興丸ニ變更  
セリ

○郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度  
司令、隊機關長、隊宛  
軍醫長宛  
主計長宛

谷 風  
濱 風  
浦 風

(第十七驅逐隊)

○事務所設置  
早崎艦裝具事務所ヲ七月二十九日大阪鐵工所櫻島造船  
所内ニ設置シ事務所開始セリ

呂號第百一、第百二潜水艦裝具事務所ヲ七月二十九  
日川崎重工業株式會社艦船工場内ニ設置シ事務所開始  
セリ

第四號敷設艇裝具事務所ヲ八月二日神奈川縣三浦郡  
浦賀町谷戸六番地浦賀船渠株式會社浦賀工場内ニ設置  
シ事務所開始セリ

○正誤  
七月二十八日辭令欄八〇八頁上段十五行目高梨周吉ノ  
官名「臺灣總督府技手」ハ「臺灣總督府糖業試驗所技  
手」ノ、同十六行目岡山 正ノ官名「同」ハ「臺灣總  
督府專賣局技手」ノ孰モ誤



(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○ 懲 罰

懲罰言渡書

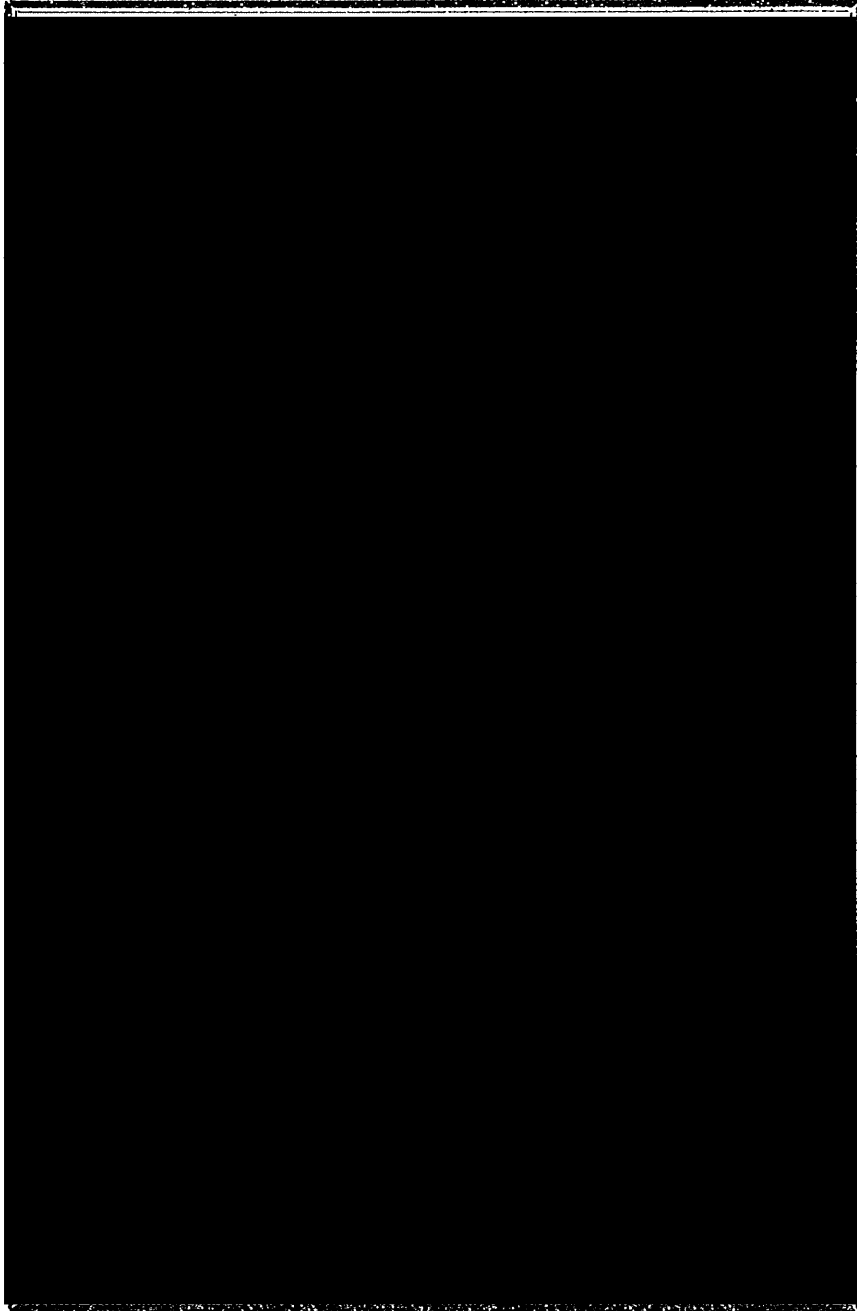
海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年八月五日(水)

海軍大臣官房

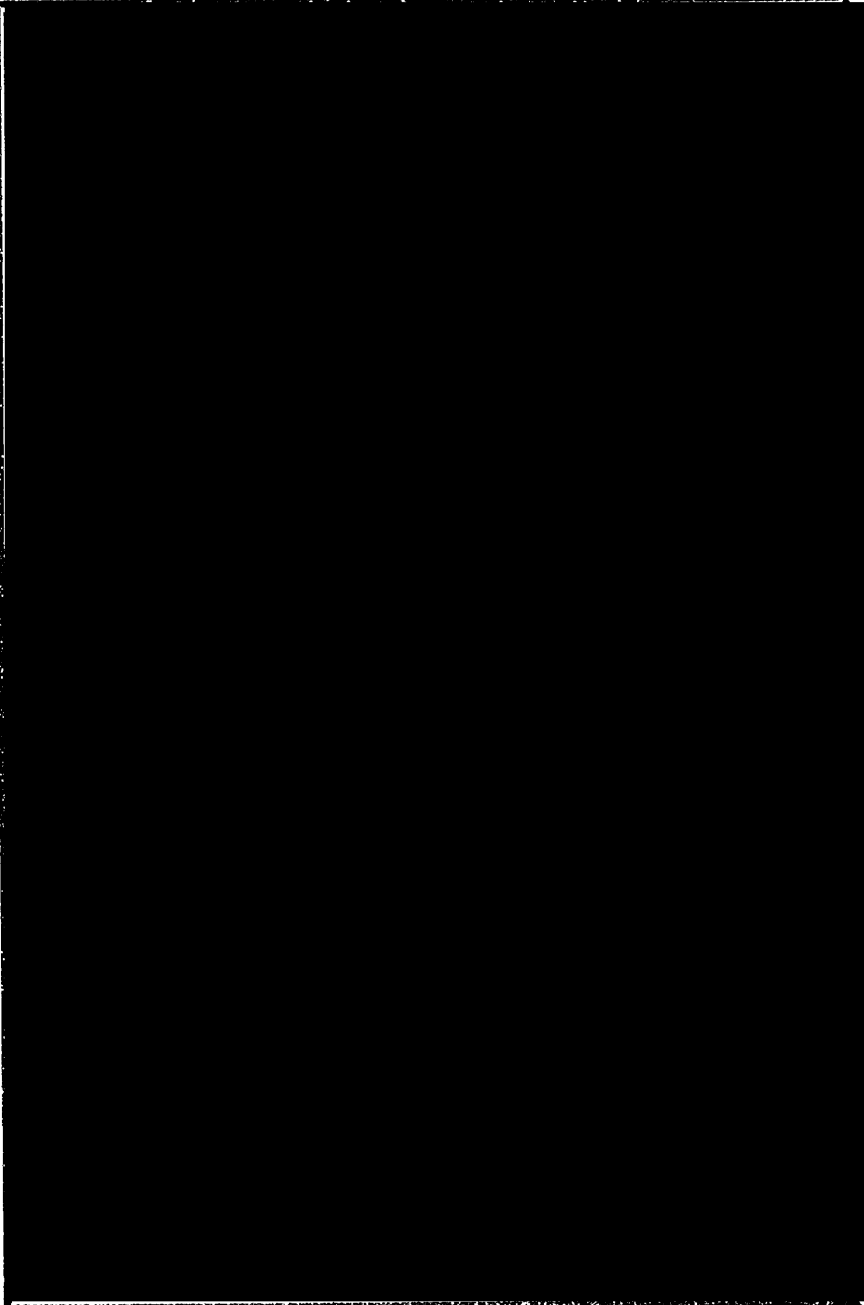
1756

海軍公報 (部内限) 號外



1757

海軍公報 (部内限) 號外



1758

海軍公報 (部内限) 號外

四

1759

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千六百六十一號

昭和十七年八月六日(木)

## 海軍大臣官房

1760

### ○ 令 達

官房機密第九七一二號

昭和十六年官房機密第四一一號中「第八十五潜水艦基地隊、」ノ下ニ「第五航空隊、」ヲ加フ

昭和十七年八月五日

海 軍 大 臣

(昭和十六年一月十七日本欄参照)

### ○ 通 牒

官房第四七七〇號

昭和十七年八月六日

海 軍 省 副 官

關係各廳長殿

公用軍事郵便速達ニ關スル件通牒

海軍關係公用軍事郵便物ノ速達ヲ圖ル爲左記ノ通定メ  
ラレ候條了知相成度

### 記

一 公用軍事郵便物ノ表面ニ「急送扱」ノ文字ヲ朱記シ大本營内(海軍部)横須賀、吳、佐世保ノ各郵便局又ハ海軍軍用郵便所窓口ニ差出シタル郵便物ハ海軍軍用航空便ニ依リ遞送ス

右郵便物ノ其ノ他ノ取扱方及料金ハ從來ノ航空便扱ニ非ザル公用郵便物ニ同シ

二 右以外ノ各地ノ郵便局ヨリ差出ス封書及葉書ハ從來通軍事航空郵便ニ依ルモノトス但シ小包ニ關シテハ適宜ノ海軍々用郵便監督官ニ之ガ遞送方ヲ特ニ依頼スルモノトス

三 現地海軍々用郵便所ヨリ本件郵便物ヲ内地ニ宛差立ツル場合ハ内南洋方面ヨリハ東京中央局ニ其ノ他ノ方面ヨリハ東京中央局及博多局ニ送付スルモノトス

兵備二機密第六七八號

昭和十七年八月五日

海軍公報(部内限) 第四千六百六十一號

昭和十七年八月六日

八三九

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

土木建築用普通石綿製品消費規正ニ關スル件照會

普通石綿(主トシテ5D級)ノ需給ハ極度ニ逼迫シアリテ一般市場ニ於ケル取得難、生産量ノ不充分ナル等ノ點ヨリ「スレート」、「エタニツトパイプ」用ノ原材料モ官給制ニ遂次移行セントスル狀況ナル處在庫補填モ到底關係各廳ノ需要ヲ充足シ得ズ依テ之等用途向配當又ハ配給斡旋ハ當分ノ間相當削減致スベキヲ以テ左記諸項參酌ノ上消費規正方可然取計ヲ得度

記

- 一 見越註文ハ嚴ニ之ヲ規正スルコト
- 二 關聯資材(鐵鋼類、セメント其他物動物資)トノ相關性ヲ考慮シ需要量ヲ嚴選シ規正ニ努ムルコト
- 三 需給容易ナル他資材ニ轉換ヲ圖ルコト
- 四 要スレバ使用箇所ニ應ジ購買規格ヲ改訂シ配合量ノ節減ヲ圖ルコト

艦本機密第三號ノ八三九七

昭和十七年八月五日

海軍艦政本部長  
海軍省軍務局長

關係各廳長殿

電氣信號燈及航海諸燈裝備標準ノ實施ニ關スル件通牒

内令兵第四十五號ニ依ル首題ノ件建造中ノ艦船及既成艦ニ關シテハ左記ニ依リ實施ノコトニ定メラレ候條了知相成度

記

- 一 建造中ノ艦船  
艦ノ性能構造ニ應ジ爲シ得ル限り本標準ヲ適用ス
- 二 既成艦  
改裝等ノ時機ニ爲シ得ル限り本標準ヲ適用スルモノトシ改裝ヲ行ハザル艦船ニ對シテハ特ニ指定スルモノヲ除クノ外本標準ヲ適用セズ

○ 辭 令

- 軍令部出仕海軍大佐 川畑 正治
- 第三部第七課勤務ヲ命ス
- 軍令部出仕海軍中佐 前田 寛次
- 第二部第四課勤務ヲ命ス(以上ハ同軍令部)

參謀部第二部第四課勤務ヲ命ス(ハ四大本營海軍部)

第二十一驅逐隊 附海軍主計少尉 白石 弘

艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(五五明支出官 海軍省經理局長)

海軍大佐 千谷 定衛

鳴門丸ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス

海軍大佐 片原 常次郎

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上七七同)

海軍主計特務中尉 高橋 紀市

横濱海軍航空隊殘留隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計兵曹長 星 尚 衛

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上七九同)

海軍豫備大尉 藤森 三郎

第二十二號掃海艇ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(五七同)

水路部附屬第八艦隊 司令部附氣象技師 木 澤 綏

水路部附屬第八艦隊 司令部附氣象技師 宮前 經吉

(各通)

同 西尾 清重  
同 小川 善朗  
同 中臺 敏雄  
同 花澤 正策

主トシテ兼務應ニ於テ服務スヘシ(五五明水路部長)

○ 雜 款

○郵便物發送先  
鹿兒島縣鹿屋海軍航空隊内土浦海軍航空隊鹿屋派遣隊  
ハ八日一日本隊ト合同ニ付派遣隊宛書類ノ發送ハ取止  
メラレ度 (土浦海軍航空隊)

○ 殘務整理

海軍横山部隊(神祥丸)殘務整理ハ横須賀砲術學校内  
ニ於テ之ヲ行フ

海軍大田(實)部隊(第二聯合特別陸戰隊司令部)殘  
務整理ハ海軍工機學校内ニ於テ之ヲ行フ

○ 事務所撤去

第四掃海隊殘務整理員事務所ヲ七月三十日撤去セリ

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第四千六百六十二號

海軍大臣官房

昭和十七年八月七日(金)

1763

官房機密第九八二八號

○ 令 達

○ 辭 令

國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ徵用期間ヲ延長セラレタル工員及傭員ニ對シ所屬廳長ハ徵用延期ノ日後作業ニ差支ナキ時期ニ於テ旅行ニ要スル往返日數ヲ除キ三日以内ノ家事整理休業日ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ家事整理休業日ニハ賃錢全額ニ相當スル金額ヲ支給シ往返ニ要スル日數ニハ賃錢ヲ支給セズ但シ缺勤日數ニ算入セザルコトヲ得

所屬廳長ハ本令ノ規定ニ依リ家事整理休業日ヲ許可シタルトキハ毎月ノ許可人員及成績ノ大要ニ所見ヲ附シ報告スベシ

徵用期間ヲ延長セラレタル雇員及傭人ハ前各號ニ準ジ大正十一年閣令第六號ノ休暇ヲ以テ之ヲ許可スルコトヲ得

昭和十七年八月七日 海軍大臣

- (各通) 氣象技師 高橋浩二郎
- 氣象技手 齋藤博英
- 同 戶崎龍郎
- 同 木村哲治
- 同 藪田謙一郎
- 第五艦隊司令部附ヲ命ス(ハル海軍省) 遞信局技手 宮川 勇
- 第四艦隊司令部附ヲ命ス 遞信技手 多田 貞二
- (各通) 線路工員 遠藤 榮吉
- 第四艦隊司令部附ヲ免ス(以上ハ同)
- (各通) 稅關調查官補兼 稅關事務官補 大谷 正男
- 稅關事務官補 米澤 三郎
- 第二南遣艦隊司令部附ヲ命ス(ハル同) 遞信事務官 菅沼 彦九郎
- 第四十一海軍軍用郵便所長ヲ命ス(ハル同)

海軍公報 (部内限) 第四千六百六十二號 昭和十七年八月七日

八四三



(各通)

商工技師 高橋 凱  
商工技師 原田 祐之

海南警備府附ヲ命ス

氣象技師 齋藤 博英

第五艦隊司令部附ヲ命ス(以上ハ同)

水路部員兼第三  
氣象隊附海軍技師 足達 左京

(各通)

水路部附第三  
氣象隊附海軍技師 篠原 健三

同 倉上 國富

同 福士 三郎

主トシテ兼務應ニ於テ服務スヘシ(水路部長)

○ 雜 款

○ 訂正

六月一日辭令欄五六八頁下段六行目ヲ「第一海軍燃料廠  
ニ於ケル研究業務ヲ囑託シ報酬年額貳百圓ヲ贈與ス」  
ニ訂正ス

1764

(限 内 部)

海軍公報(部内限)號外

海軍大臣官房

昭和十七年八月七日(金)

○ 雜 款

出征軍人軍屬及在支警察官並其遺族等慰問金釀出明細表(六月份)  
 一金七千參拾參圓壹錢也

内 譯

應 名	金 額	應 名	金 額	應 名	金 額	應 名	金 額
海軍大臣官房	五九三〇	海軍省教育局	五九六〇	海軍航空本部	一三三三〇	海軍技術研究所	四七三五〇
海軍省調査課	三九二四〇	同 軍需局	八二八〇	海軍施設本部	一七四二〇	海軍大學校	六〇六三〇
同 電信課	三九八四〇	同 醫務局 (含四月份)	三三七〇	南方政務部	七四八〇	海軍軍醫學校	一五八二〇
海軍文庫	四七四〇	同 經理局	一九〇六〇	海軍運輸部	三三〇一〇	海軍經理學校	一三三三〇
海軍省軍務局	一三四〇〇	同 法務局	三三三〇	東京海軍監督官 事務所	一八四七三〇	橫須賀鎮守府軍 法會議	一四三五〇
同 兵備局	八五三〇	軍 令 部	三九四〇〇	侍從武官府	一三〇〇〇	橫須賀海軍人事 部	六〇三〇
同 人事局 (含武功調査)	六六六〇	海軍艦政本部	七四〇一〇	水 路 部	一七〇九四〇	同 艦船部	七六〇〇

海軍公報(部内限)號外

1765

海軍公報 (部内限) 號外

同 軍需部	同 經理部	部 佐世保海軍人事	法會 佐世保鎮守府軍	佐世保鎮守府	同 港務部	吳海軍刑務所	吳鎮守府軍法會議	海軍工作學校	團 橫須賀第一海兵	同 刑務所	同 病院	同 建築部	同 軍需部	部 橫須賀海軍經理
三〇〇八〇	一四三〇〇	七六〇	一〇三三〇	五六一〇	三三三〇	六九三〇	一七九三〇	七五〇〇	三二二四〇	七五〇〇	一七三三〇	一四九七〇	四八七九〇	三三六一〇
大阪海軍監督官事務所	光海軍工廠	豊川海軍工廠	廣海軍工廠	第二同	第一海軍航空廠	第五同	第三海軍燃料廠	海軍兵學校	野比同	嬉野海軍病院	大湊海軍工作部	大湊警備府	同 刑務所	佐世保海軍病院
一三五四〇	一五六四〇	一四七四〇	一八一三〇	九三七〇	七三三〇	八五七〇	一六九〇〇	三三三九〇	一三六〇	二五三〇	一〇六七〇	一四四四五〇	八〇〇	一〇五五〇
昭和十七年七月三十一日 海軍省經理局 海軍主計少佐 兒 玉 茂														
八幡海軍監督官事務所 名古屋同 浦賀同 玉野同 廣島同														
一七三〇 四三三〇 一五六〇 一六六〇 三三八〇														
大阪海軍地方人 大阪警備府 大阪海軍經理部 第四海軍建築部 東京支部														
九八七〇 三六九〇 四〇三五〇 三六六〇														

1766

# 海軍公報 (部内限) 第四千六百六十三號

昭和十七年八月八日(土)  
海軍大臣官房

## ○令 達

官房第四八一五號

昭和七年官房第六五七號中左ノ通改正ス

昭和十七年八月八日

海軍大臣

表中職員ノ欄所員「專任 十一人 判任」ヲ「專任 十  
二人 判任」ニ、「專務 二十三人 雇員」ヲ「專務 十  
八人 雇員」ニ改ム

(参照) 海軍諸例則卷一、四三七頁

官房第四八一六號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十七年八月八日

海軍大臣

表中第三十二海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任  
五人 判任」ヲ「專任 六人 判任」ニ、「專務 四人 雇  
員」ヲ「專務 六人 雇員」ニ、第三十五海軍軍用郵便

所ノ項設置所ノ欄「第一航空艦隊ノ一艦」ヲ「第三艦  
隊」ニ、所屬「第一航空艦隊」ヲ「第三艦隊」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナ  
リ(昭和十七年二月十九日本欄)

## ○通 牒

兵備四機密第二八八號

昭和十七年八月七日

海軍省兵備局長

關係廳長殿

勞務調整令第二條ノ指定工場ニ關スル件

照會

今般左記各廳ハ勞務調整令第二條ノ規定ニ依ル指定工  
場ニ指定セラレ候條了知相成度

進テ從業者一般ニ對シ此ノ旨周知セシメラレ度

記

海軍艦政本部製圖工場

海軍公報(部内限) 第四千六百六十三號 昭和十七年八月八日

八四五

1767

海軍技術研究所  
 横須賀海軍工廠  
 吳海軍工廠  
 佐世保海軍工廠  
 廣海軍工廠  
 舞鶴海軍工廠  
 光海軍工廠  
 豊川海軍工廠  
 大湊海軍工作部  
 海軍航空技術廠  
 海軍航空技術廠支廠  
 第一海軍航空廠  
 第二海軍航空廠  
 第十一海軍航空廠  
 第十一海軍航空廠大分支廠  
 第二十一海軍航空廠  
 第二十一海軍航空廠鹿屋支廠  
 第三十一海軍航空廠  
 第四十一海軍航空廠  
 第四十一海軍航空廠千歳分工場  
 第四十一海軍航空廠美幌分工場

横須賀海軍軍需部  
 横須賀海軍軍需部霞浦支部  
 吳海軍軍需部  
 吳海軍軍需部岡山作業所  
 佐世保海軍軍需部  
 舞鶴海軍軍需部  
 大湊海軍軍需部  
 横須賀海軍建築部  
 吳海軍建築部  
 佐世保海軍建築部  
 舞鶴海軍建築部  
 大湊海軍建築部  
 第四海軍建築部芝浦支部  
 横須賀海軍港務部  
 吳海軍港務部  
 佐世保海軍港務部  
 舞鶴海軍港務部  
 大湊海軍港務部  
 第一海軍火藥廠  
 第二海軍火藥廠  
 第三海軍火藥廠

第一海軍燃料廠  
第二海軍燃料廠  
第三海軍燃料廠  
第四海軍燃料廠

○ 辭 令

臺灣總督府警察官及司獄官  
練習所教官兼臺北州警部

山本 信治

海南警備府附ヲ命ス(以上同海軍省)

專賣局參事 大庭 次郎

海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金八拾圓ヲ贈與ス

海軍省事務囑託ヲ解ク

專賣局部長 相馬 敏夫

海軍省事務ヲ囑託ス(以上同)

海軍法務中將 尾畑 義純

海軍法務科士官實務修習考試委員長ヲ命ス

海軍法務大佐 島田 清

(各通)

海軍法務中佐 金井 重男

海軍法務少佐 馬場 東作

海軍法務科士官實務修習考試委員ヲ命ス

同 中島 武雄

海軍錄事 山中 謙一  
海軍法務科士官實務修習考試委員附ヲ命ス(以上同)

海軍豫備少尉正八位 木村 政恵  
徵用中年額千九百八拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

南方政務部附兼海軍省兵備局附ヲ命ス(以上同)  
遞信屬 佐藤 達也  
海軍少將 西尾 秀彦

軍港都市調査委員會委員ヲ命ス  
海軍大佐 篠田 勝清  
(各通) 同 岡崎 文勳

軍港都市調査委員會副委員ヲ命ス(以上同)  
海軍主計大佐 鳥居 新一  
(各通) 遞信局書記 武半 新次  
通信書記補 川村 重徳

第五海軍軍用郵便所員ヲ命ス  
集配員 安積 志磨吉  
(各通) 同 鈴木 利智

第五海軍軍用郵便所員ヲ命ス  
同 堀 松次郎

海軍公報(部内限) 第四千六百六十三號 昭和十七年八月八日

八四七

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

(各通)

事務員 古田 文作  
集配員 久保 秀雄  
同 松元 一三

第七海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

事務員 菊永 親行

第四十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上同)

海軍主計特務中尉 佐藤 芳雄

第二海上護衛隊司令部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(出納支出官 海軍省經理局長)

海軍大佐 堀江 義一郎(艦本)

海軍中佐 田中 正雄(同)

同 人見 豊治(巻波)

海軍少佐 河村 富良夫(舞鎮)

海軍大尉 余田 四郎(巻波)

海軍中尉 田上 俊三(同)

(各通) 海軍機關中佐 中川 武男(舞廠)

同 安増 昇(舞鎮)

海軍機關少佐 川又 政信(艦本)  
海軍機關大尉 前田 憲夫(巻波)  
海軍豫備中尉 住友 勇(同)  
驅逐艦巻波審議委員ヲ命ス(海軍艦政本部)

○ 雜 款

○艦隊例規ニ關スル件照會

當艦隊發行ニ係ル艦隊諸例規ノ供用請求竝ニ之ガ取扱ニ關シテハ左記ニ依リ處理ノコトニ勵行相成度

記

一 諸例規請求ノ際ハ左ノ通明記ノコト

(一) 供用希望圖書名機密第一艦隊例規、第一艦隊例規、軍艦例規(別冊)

(二) 發送上必要ナル氣付局名、場所、部隊名又ハ個有所轄名

二 亡失等ノ場合ハ規定ノ通速ニ報告ノコト

三 艦隊ヨリ除カレタル際又ハ不要トナリタル場合ハ添付書類ヲ附シ各例規共速ニ返却ノコト

四 其ノ他部隊改編等ニ依ル例規授受處理ニ關シテハ其ノ都度速ニ事由ヲ詳記シ通知ノコト

(第一艦隊副官)

○普通軍事教育圖書

昭和十七年七月中納庫セル普通軍事教育圖書左ノ如シ

1770

船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

		(海軍文庫)	
圖書名	標記番號	類別	
元帥伊東祐亭	海軍省教普 第七百九號	備品	
大南洋産業資源精圖	同 第七百十六號	備品	

○郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

東京市麴町區霞ヶ關海軍省構内  
軍令部副官部氣付

追テ福岡、臺北附近ヨリ發送ノ場合ハ夫々  
福岡雁ノ巢飛行場氣付  
臺北海軍武官府氣付  
トシ何レモ航空郵便ノ指定ヲ要セズ

(泰國在勤海軍武官室)  
盤谷海軍武官室

司令、隊機關長宛 若葉  
軍醫長宛 初霜  
主計長宛 初春  
(第二十一驅逐隊)

○事務所設置  
新井崎艦裝具事務所ヲ八月三日岡山縣玉野市玉三井造

海軍公報(部内限) 第四千六百六十三號 昭和十七年八月八日



(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第四千六百六十四號

昭和十七年八月十日(月)

海軍大臣官房

1772

## ○令 達

官房機密第九三一號

昭和十二年官房機密第三四〇一號中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十日

海軍大臣

第四條 特務艦長必要アルトキハ主計長ヲシテ修理用材料物品ヲ直買セシムルコトヲ得

(參照) 昭和十二年官房機密第三四〇一號ハ工作艦タル特務艦及特設工作艦タル特設特務艦ノ工作ニ關スル件ナリ(昭和十二年海軍公報部内限第二六九九號(昭和十五年二月二十七日官房機密第九一四號改正)及海軍艦政秘法規類集五二〇ノ一頁參照)

## ○通 牒

海功調機密第六號ノ二

昭和十七年八月十日

海軍功績調査部長

### 各 應 長 殿

功績書類喪失ノ際ノ處置ニ關スル件申進  
艦船覆没等ノ事故ニ依リ功績關係書類ヲ喪失セル際ノ處置ハ當分ノ間功績調査規程ニ拘ラズ左記ニ依ルコトニ一定セラレ候

### 記

- 一 生存者ニ對スル分
    - (一) 當該艦ニ於テ前勤務廳、海軍功績調査部、海軍人事部等ニ照會再調製ス
    - (二) 前項ノ處理不能ナル場合(殘務整理期間短少等ノ理由ニ依ルモノ)
      - (イ) 當該艦關係功績書類ハ之ヲ調製シ轉勤先應ニ送付ス
      - (ロ) 其ノ他ノ書類ノ再調製ハ轉勤先應ニ協議依頼ス
  - 二 死歿者ニ對スル分
    - (一) 當該艦
- 當該艦關係功績書類ノミヲ調製シ海軍功績調査規

海軍公報 (部内限) 第四千六百六十四號 昭和十七年八月十日

八五一

程第十五條ノ手續ヲ爲ス

(二) 海軍功績調査部、海軍人事部

(一) 項ニ依ル具申書類ニ所要ノ功績明細書寫、履歷書等ヲ添付整備ス

艦本機密第二號ノ八五五六

昭和十七年八月八日

記

各艦船部隊御中

海軍艦政本部

探信儀水中聽音機及九二式機雷造修所掌ニ關スル件通知

海軍艦政本部及海軍工作應ニ於ケル首題ノ件六月以降左記ノ通變更セラレ候條了知相成度

兵器名稱	艦政本部	工	作	應	記	事
探信儀	第三部	各工廠造兵部又ハ電氣部ノ無線工場、無線檢査係		無線工場、無線檢査係ナキ工廠	無線工場、無線檢査係	ハ電氣工場、電氣檢査係
水中聽音機 <small>(艦船用) (沿岸用)</small>	第三部	線工場、無線檢査係		ハ電氣工場、電氣檢査係	無線工場、無線檢査係	ハ電氣工場、電氣檢査係
九二式機雷	第二部			工作應所掌ハ從前通		

○辭令

(各通)

南洋應屬 廣瀬 幸一  
南洋應通譯生 稻田 豊藏  
同 井部 善夫

第三艦隊司令部附ヲ命ス(三三〇海軍省)

(各通)

南洋應屬 中山 長正  
同 平野 唯重  
第三艦隊司令部附ヲ命ス(三三〇同)  
海軍艦政本部業務囑託

自今報酬年額參千圓ヲ給ス(三三〇同)

中目 眞隆

興亞院技師 諏訪 光一

第二遣支艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス(五〇四同)

山倉 嘉二郎

第二南遣艦隊業務囑託ヲ解キ南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

正六位勲六等 大野 藤一郎

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上七〇四同)

大石 和夫

第八艦隊齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(七六〇同)

(各通) 大野 和男  
水谷 總太郎

海軍航空技術廠ニ於ケル技術業務囑託ヲ解ク(七七一同)

正五位勲六等 黒岩 浩一

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(七三〇同)

鐵道局書記 田上 靖夫

海軍運輸部附ヲ命ス

鐵道屬 寺口 正次

海軍運輸部附ヲ免ス

中目 眞隆

海軍艦政本部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(以上七五〇同)

(各通)

海軍豫備學生 禾 晴道

同 伊東 定典

臨時第二十三特別根據地隊司令部ニ派遣ヲ命シ置キタル處之ヲ免シ臨時南西方面艦隊セレベス民政部ニ派遣ヲ命ス

依田 理

第三艦隊齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

高橋 謙

海軍航空本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上八〇四同)

海軍艦政本部造船造兵 監督長海軍機關大佐 美奈川 武保

長崎監理長ヲ命ス

長崎監査長ヲ命ス(八〇四同)

江上 後郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

牧野 耕三

海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

海軍公報(部内限) 第四千六百六十四號

昭和十七年八月十日

八五三

1774

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

勳七等 相羽 吉之助

海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

坂口 昌弘

第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

辻 二郎

海軍施設本部ニ於ケル研究業務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス

西田 正孝

海軍施設本部ニ於ケル研究業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

上野 征龍

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

永尾 重雄

吳海軍經理部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

遇トス

(各通)

海軍艦政本部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク

松井 小三郎  
島本 秀雄

高橋 重馬

佐世保鎮守府ニ於ケル水先業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上ハ同)

○ 雜 款

○ 旗艦變更  
第三南遣艦隊司令長官ハ八月六日旗艦ヲ八重山ニ變更セリ

○ 事務所設置  
呂號第百三潜水艦裝具事務所ヲ八月三日吳海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千六百六十五號

海軍大臣官房

昭和十七年八月十一日(火)

○ 令 達

官房第四八五三號

表彰内規中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十一日

海軍大臣

第二號被表彰者(中)「又ハ發明、考案、研究等ニ關シ  
海軍技術有功章令ニ依ル海軍技術徽章授與ノ程度ニ至  
ラザルモ其ノ功績顯著ナル者」ヲ削ル

(参照) 諸例則卷二、四八〇ノ三頁

官房第四八五四號

海軍技術有功章令ニ關スル内規中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十一日

海軍大臣

第三號授與區分(イ)中「徽章」ヲ「有功章」ニ、「百圓」  
ヲ「五十圓」ニ改ム

(参照) 諸例則卷二、四八〇ノ七頁

官房第四八五五號

臺灣高雄ニ漂着セル内火艇ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱  
番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十七年八月十一日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數	記事
第四〇號	内火艇 (九米五)	馬公海軍軍需部 (高雄出張所用)	臨時 附屬	臺灣高雄燈臺附近ニ 漂着セル舊米園内火 艇

官房第四八五六號

大正六年官房第一一五一號別表中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十一日

海軍大臣

新竹航空隊司令ノ次ニ左ノ項ヲ加フ	三重航空隊司令	六〇〇〇
------------------	---------	------

海軍公報 (部内限) 第四千六百六十五號 昭和十七年八月十一日

八五五

1776

(参照) 大正六年官房第一一五號ハ司令長官以下ニ於テ要スル接  
待費定額設定ノ件ナリ(會計法規類集一卷一一三頁)

○ 退 牒

海人第一號ノ一四〇

昭和十七年八月十日

海軍省 人事局長

關係各廳長殿

連絡部ニ勤務スル興亞院調査官ノ人事取  
扱ニ關スル件通牒

興亞院調査官ニシテ各連絡部ニ勤務スル定員外海軍武  
官ノ人事ハ華北連絡部及華中連絡部ニ勤務スルモノニ  
在リテハ支那方面艦隊司令部ニ於テ、厦門連絡部ニ勤  
務スルモノニ在リテハ第二遣支艦隊司令部ニ於テ夫々  
其ノ職員ニ準ジ之ヲ取扱フコトニ定メラレ候、  
追テ昭和十四年海人第一號ノ四八ハ自然消滅ノ義ト  
了知相成度

○ 辭 令

高雄州警備部補 柳澤 十郎

海南警備府附ヲ免ス(七月海軍省)

○ 雜 款

○司令潜水艦變更  
第十九潜水隊司令ハ八月四日司令潜水艦ヲ伊號第五百  
十六潛艦ニ變更セリ

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

宛

先

一 香取丸

發送先

横須賀郵便局氣付  
(軍事郵便)

一 第二十四海軍通信隊

吳郵便局氣付  
「七四〇七貳貳」

一 第二百二海軍建築部

吳郵便局氣付  
(第二十五海軍軍用)  
(郵便所經由)

スラバヤ本部  
バリツクパパン出張所

「七貳壹 七參八」

マカツサル同

「七參貳 七參八 七四參」

クーバン同

「七四五 七參八 七四參」

ケンダリ派出所

「七壹貳 七參八 七四參」

サンガサンカ同

「七壹九 七參八 七五八」

バタバヤ同

「七貳貳 七參八 七五八」

デリー同

「七壹八 七參八 七五八」

1777

<p>メナド同 第三十一海軍航空隊 「セ壹壹セ參八セ五八」 吳郵便局氣付</p>	<p>驅潜艇第十三號、第十四號、第十五號 「テ貳壹テ壹九」 横須賀郵便局氣付 (軍事郵便)</p>	<p>億洋丸 吳郵便局氣付 (第二十五海軍軍用郵便所經由軍事郵便)</p>	<p>第十三號掃海隊殘務整理委員 横須賀郵便局氣付 「ウ參〇ウ貳九」</p>	<p>第五氣象隊 北海道厚岸郵便局氣付 「ウ壹四四」</p>	<p>西安丸 吳郵便局氣付 (七四〇セ貳壹經由軍事郵便)</p>	<p>佐世保鎮守府第五特別陸戰隊 横須賀郵便局氣付 「ウ〇〇ウ壹四壹」</p>	<p>松良大佐事務所 吳海軍工廠總務部氣付</p>	<p>第六海軍航空廠 横須賀郵便局氣付 「ウ八六ウ壹貳六」</p>	<p>第六航空廠「ルオット」分工場 横須賀郵便局氣付 「ウ九壹ウ壹貳六ウ五八」</p>		
<p>第五測量隊 横須賀郵便局氣付 (大湊郵便局經由) 「ウ壹六七」</p>	<p>横須賀鎮守府第一特別陸戰隊 吳郵便局氣付 (第二十五海軍軍用郵便所經由) 「ウ壹六壹」</p>	<p>驅潜艇第十六號、第十七號、第十八號 横須賀郵便局氣付 「ウ壹〇五」</p>	<p>○練習生精神教育資料送付ニ關スル件 今次大東亞戰爭ニ於テ隨所ニ發揮セラレタル我海軍傳統精神ノ精華ハ其ノ實例不尠ト認メラレ候處右ハ練習生精神教育上ニモ得難キ貴重ナル資料ト被存候ニ付御手數乍ラ其ノ實情細大トナク通知方相煩度 尙戰没水雷出身下士官兵遺品等ニテ分讓差支ナキモノ有之候ハバ一品ニテモ送付ヲ得度 (海軍水雷學校)</p>							<p>○事務所設置 第三十四驅潜艇艦裝具事務所ヲ七月三十一日兵庫縣赤穂郡相生町播磨造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>	<p>○事務所撤去</p>

海軍公報(部内限) 第四千六百六十五號 昭和十七年八月十一日

八五七

1778

海軍公報(部内限) 第四百六十五號 昭和十七年八月十一日

八五八

伊號第七十六潜水艦艇裝具事務所ヲ八月四日撤去セ

1779